

第三回報告書

2016年度奨学生 澁谷 陽子

こんにちは、スタンフォード大学経済学部1年の澁谷陽子です。

授業

冬、春学期も夏に引き続き経済学博士課程のコースワーク(macro, micro, econometrics)を履修しました。宿題に追われていた夏学期とは違い、今学期は宿題をやる時間を最低限に抑えある程度他の勉強に時間を使えるようになりました。今学期中の目標は夏休みに向け研究テーマを絞ることでしたが、文献を読むにつれもともと興味があった分野(金融規制)への関心が薄れていってしまい、まだ研究テーマを絞りきれいていません。あれもこれも面白いと思って飛びついてしまう癖を直して研究テーマを絞りたいのですが、急ぐと小さいテーマに落ち着いてしまうような気がして、夏休みの時間を使ってテーマを絞ろうと思います。今学期で必修のクラスが全て終わったので、来学期からは自分の好きな科目をとれるようになります。興味のない科目を履修しなくてよくなるのは嬉しいですが、私の専攻しているマクロ経済学はスタンフォードでは比較的人気のない科目なので(ミクロが人気)、多くのクラスメイトに来年以降なかなか会えなくなってしまうのが悲しいです。

2年目に向けて

スタンフォードでは一年生の終わり(夏休み)から一年間、教授のリサーチアシスタントをすることが通例となっています。学生は一年生の間に興味のある先生にコンタクトをとり、RAをする先生を決めます。私はAdrien Auclertという1年目の助教授につくことになりました。大御所の先生につく生徒が多いなかで1年目の先生を選ぶのは少しリスクな選択でしたが、性格の相性で最後は選びました。また、これは後々分かったことなのですが、私の日本での指導教官である青木先生が、以前にイギリスで教えていらっかったときに、Adrienが生徒として授業を受けていたそうです。これが判明した時には、二人で青木先生の思い出で盛り上がりました。改めて、青木先生のように、生徒に大きな影響をあたえられるような先生になりたいな、と思いました。

授業を受けていると、一年間が一瞬で過ぎてしまい、この後の4、5年間も気をつけないとあっという間に過ぎてしまうんじゃないかという危機感を最近おぼえました。たくさんの奨学金をもらいアメリカで勉強させていただいているという自覚を持ち、研究成果を出して船井奨学金に恩返し出来るように気を引き締めてこれから頑張ります。船井奨学金の方々、いつもありがとうございます。